環境経営レポート

2023年度（2023年8月～2024年度7月）

作成：2024年10月10日

株式会社 加藤商店

1. 組織の概要

1) 事業所名及び代表者名

事業所名　：　株式会社 加藤商店

代表者名　：　加藤芳秀

2) 所在地・事業活動

所在地　　：　本社・工場　　〒289-150(千葉県山武市松尾町谷津2番地

事業活動　：　産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物収集・運搬及び中間処理業
各種タンク清掃及び管理、再生油製造・販売

3) 環境管理責任者

環境管理責任者　：　加藤芳秀

当社連絡先　　：　千葉県山武市松尾町谷津2番地
TEL：　0479-86-2068　　FAX：　0479-86-2364

4) 事業の概要

法人設立年月日　：　1959年1月28日

資本金　　：　1,000万円

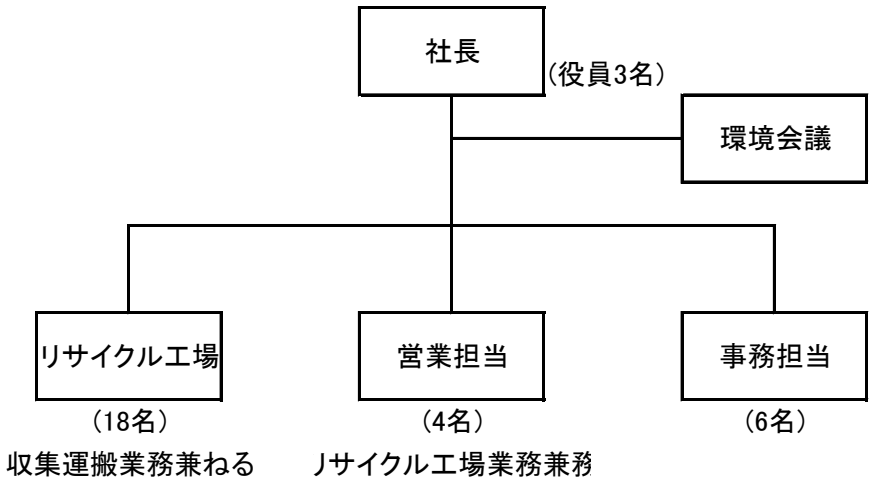
所在地　　：　本社・工場 千葉県山武市松尾町谷津2番地

売上高、従業員、敷地面積　　年度：8月～7月

	単位	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
売上高	百万円	419	496	498	543	732	742	854
社員数	人	21	18	17	21	24	31	27
敷地面積(本社)	㎡	―	―	―	―	―	91.31	91.31
敷地面積(工場)	㎡	5,650	5,650	5,650	5,650	5,650	5,650	5,650

5) 組織図

2023年10月30日 現在



6) 役割と責任及び権限

① 社長

・ 社長は、当社における環境マネジメントシステムの最高位の責任と権限を有する。
その主な職務、責任、権限は次の通りとする。

a 環境マネジメントシステムの実施および管理に不可欠な経営資源を必要に応じて提供する。
b 経営資源には人的資源及び専門的な技能、当社のインフラストラクチャー、技術並びに資金を含む。
c 環境マネジメントシステムの確立、実施、維持の責任と権限を有する環境管理責任者の任命
d 環境方針の制定、改訂、周知
e 課題とチャンスの明確化
f 環境経営マニュアル、会社規定、手順書の制定、見直しにおける承認
g 環境管理に関する諮問及び審議機関としての環境会議の設置と開催の指示
h 環境活動計画書、環境目標・活動計画／進捗管理表の承認
i 環境教育訓練計画/実施記録の承認

② 環境管理責任者

・ 社長より任命された環境管理責任者の主な職務、責任、権限は次の通りとする。

a 環境関係法令等登録表／遵守評価記録の承認
b 環境経営マニュアルの作成
c 環境活動計画書、環境目標・活動計画／進捗管理表の作成
d 環境教育訓練計画/実施記録の作成
e 外部環境情報の窓口及び報告書の作成
f 遵法性評価の実施
g 是正処置、予防処置の指示・有効性の確認
h マネジメントレビューのための情報提供、及び記録の作成

③ 事務担当、営業担当、工場

・ 各部門の主な職務、責任、権限は次の通りとする。

a 環境目標・活動計画の実施
b 教育・訓練、緊急事態対応テストの実施
c 是正処置、予防処置の実施

④ 環境会議の役割

・ 環境会議の役割は次の通りとする。

a マネジメントレビュー
b 環境マネジメントに関する審議
c 各担当からの活動状況、改善提案等の報告、及び審議
d 環境目標・活動計画の審議
e 内部コミュニケーション

7) 事業活動の内容

① 許可内容（産業廃棄物収集運搬業許可）

自治体	許可番号	許可年月日	許可 有効期限		品目		
					汚泥	廃油	廃アルカリ
千葉県	第01200005688号 優良認定	令和5年9月6日	令和12年7月20日	積替え保管を除く	●	●	●
					*1、*2、*3、*10		
東京都	第13-00-005688号 優良認定	令和5年8月1日	令和12年7月30日	積替え保管を除く	●	●	●
神奈川県	第01402005688号 優良認定	更新申請中		積替え保管を除く	●	●	●
埼玉県	第01100005688号 優良認定	平成30年8月30日	令和7年8月29日	積替え保管を除く	●	●	●
					*1、*2		
茨城県	第00801005688号 優良認定	令和6年2月9日	令和12年12月5日	積替え保管を除く	●	●	●
					*4、*2、*7、*8	*6、*7	*7、*8
栃木県	第00900005688号 優良認定	令和3年8月22日	令和10年8月21日	積替えを除く	●	●	●
					*1、*2		
群馬県	第01000005688号	令和4年6月17日	令和9年6月16日	積替え保管を除く	●	●	●
福島県	第00707005688号	令和4年3月28日	令和9年3月28日	積替え及び保管を行為を除く	●	●	●
					*4、*7、*8		
静岡県	第02201005688号	令和4年12月9日	令和9年12月8日	積替え及び保管を行為を除く	●	●	●
兵庫県	第02803005688号	令和4年10月20日	令和9年10月19日	積替え保管を含まない	●	●	●
					*9		*8

<<備考>>

*1 「石綿含有産業廃棄物を含む」の記載のない種類については、石綿含有産業廃棄物を収集・運搬できない。

*2 「水銀使用廃製品産業廃棄物を含む」、「水銀含有ばいじん等を含む」の記載がない種類については、それぞれ水銀使用廃製品産業廃棄物、水銀含有ばいじん等を収集・運搬できない。

*3 特別管理産業廃棄物であるものを除く。

*4 石綿含有産業廃棄物を除く。

*5 含油汚泥に限る。

*6 油水分離可能なものに限る。

*7 水銀使用廃製品産業廃棄物を除く

*8 水銀含有ばいじん等を除く

*9 水銀含有ばいじん等又は石綿含有産業廃棄物を除く。

*10 これらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く。

② 許可内容(特別管理産業廃棄物収集運搬業許可)

自治体	許可番号	許可年月日	許可 有効期限		品目	
					廃油	特定有害物質 産業廃棄物
千葉県	第0125005688号 優良認定	令和5年9月6日	令和12年7月20日	積替え保管を 除く	● *1	● *4
東京都	第13-50-005688号 優良認定	令和5年8月1日	令和12年7月30日	積替え保管を 除く	● *3	
神奈川県	第01452005688号 優良認定	更新申請中		積替え保管を 除く	● *2	
埼玉県	第01550005688号 優良認定	平成30年8月30日	令和7年8月29日	積替え保管を 除く	● *2	
茨城県	第00851005688号 優良認定	令和6年2月9日	令和12年12月5日	積替え無 保管無	● *2	
福島県	第00757005688号	令和4年3月28日	令和9年3月28日	積替え及び保 管行為を含ま ない	● *1	
兵庫県	第02853005688号	令和4年10月20日	令和9年10月19日	積替え保管を 含まない	●	

<<備考>>

*1 廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類に限り、特定有害産業廃棄物であるものを除く）

*2 廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類に限る）

*3 廃油（揮発油類、灯油類、軽油類）

*4 特定有害産業廃棄物　廃油(1,4－ジオキサンを含むことのみにより有害なものに限る。)

③ 許可内容(産業廃棄物処分業許可)

自治体	許可番号	許可年月日	許可 有効期限	品目	
				汚泥	廃油
千葉県	第01200005688号 優良認定	令和5年9月6日	令和12年7月20日	● *1、*2	● *2

<<備考>>

*1 廃油との混合物に限る

*2 これらのうち特別管理産業廃棄物であるものを除く。

<<許可の条件>>

1、 産業廃棄物産業廃棄物の処理に当たっては、保管施設及び処理施設の維持管理を徹底することにより、飛散・流出、悪臭の防止に努めること。

2、 処理する産業廃棄物は、発生源別にその性状等分析調査してから受け入れること。

④ 許可内容(特別管理産業廃棄物処分業許可)

自治体	許可番号	許可年月日	許可 有効期限	品目
				廃油
千葉県	第01200005688号 優良認定	令和5年9月6日	令和12年7月20日	● *1

<<備考>>

*1 揮発油類、灯油類及び軽油類に限り、特定有害物質産業廃棄物であるもものを除く。

<<許可の条件>>

1、 特別管理産業廃棄物産業廃棄物の処理に当たっては、保管施設及び処理施設の維持管理を徹底することにより、飛散・流出、悪臭の防止に努めること。

2、 処理する特別管理産業廃棄物は、発生源別にその性状等分析調査してから受け入れること。

⑤ 事業に供する全ての施設（産業廃棄物処分業）

施設の種類 （許可年月日及び許可番号）	処理能力又は保管量 （設置年月日）	数量	設置場所
廃油等の油水分離施設 (静置分離)	2.66t/日（13.3 ㎥ × 5日） （昭和51年2月24日）	2	千葉県山武市松尾町 谷津字谷田 2番1、 2番2、 3番1、 4番1、 蕪木字宝田 338番1、 338番2、 338番3、 338番4、 338番5、 338番6、 338番7、 339番1、 339番2、 340番1
廃油の受入保管施設	100㎥ 51㎥ （ドラム缶 256本）	1	
処理後の保管施設	100㎥ 51㎥ （ドラム缶 256本）	1	
処理後の保管施設	25㎥	3	
処理後の保管施設	50㎥	2	
処理後の保管施設	2.0㎥	3	
残さ物保管施設	7.0㎥	2	
残さ物保管施設	6.0㎥	1	

⑥ 事業に供する全ての施設（特別管理産業廃棄物処分業）

施設の種類 （許可年月日及び許可番号）	処理能力又は保管量 （設置年月日）	数量	設置場所
廃油等の油水分離施設 (静置分離)	2.66㎥/日 （13.3 ㎥ × 5日） （昭和51年2月24日）	2	千葉県山武市松尾町 谷津字谷田 2番1、 2番2、 3番1、 4番1、 蕪木字宝田 338番1、 338番2、 338番3、 338番4、 338番5、 338番6、 338番7、 339番1、 339番2、 340番1
廃油(特別管理産業廃棄物)の 受入保管施設	40㎥ 19㎥ （ドラム缶96本）	1	
処理後物(特別管理産業廃棄物) 保管施設	40㎥ 19㎥ （ドラム缶96本）	1	
	50㎥	3	
処理後物保管施設	50㎥	2	
処理後物保管施設	7㎥	2	
	6㎥	1	
	2㎥	3	

8) 設備等の状況

① 収集運搬車両

令和6年4月1日現在

登録番号又は車両番号	車両形式	最大積載量（トン）	積載可能寸法（全長X幅X高さ(m)	保有台数（台）	備考
成田800　は　366	タンク車	14.16	11.12×2.49×2.97	1	
千葉800　は　572	タンク車	11.96	9.04×2.49×2.92	1	
成田800　は　26	タンク車	11.96	9.19×2.49×2.97	1	
成田800　は　71	タンク車	11.96	9.19×2.49×2.97	1	
成田830　す　313	タンク車	12.39	9.35×2.49×2.93	1	
成田800　は　212	タンク車	12.20	9.39×2.49×2.96	1	
千葉800　す　7992	タンク車	3.40	6.21×2.20×2.42	1	
千葉800　す　4430	タンク車	3.41	6.08×2.20×2.48	1	
成田800　さ　727	タンク車	2.94	6.14×2.17×2.42	1	
成田830　さ　828	タンク車	3.02	6.17×2.19×2.40	1	
成田830　さ　525	タンク車	3.02	6.17×2.19×2.47	1	
成田830　す　323	清掃車	2.64	6.36×2.19×2.54	1	
千葉800　す　8033	清掃車	3.60	5.94×2.17×2.53	1	
千葉800　さ　1598	清掃車	3.70	6.08×2.18×2.39	1	
成田800　は　238	清掃車	8.50	9.10×2.49×3.21	1	
成田830　す　626	清掃車	8.86	9.69×2.49×3.30	1	
千葉800　せ　3070	清掃車	2.41	6.34×2.18×2.97	1	
成田830　つ　1001	清掃者	8.84	9.62×4.49×3.35	1	
千葉430　す　2068	キャブオーバー	1..05	4.696×1.69×1.99	1	
成田100　は　381	キャブオーバー	7.10	8.03×2.35×3.08	1	
成田130　さ　382	キャブオーバー	7.00	8.92×2.37×3.69	1	
成田430　さ　2068	バン	0.40	1.69×1.52×6.70	1	GSN車
成田430　せ　7216	バン	0.45	1.69×1.50×6.70	1	GSN車

全保有台数　23　台

② その他(重機等)

車種	車両能力	台数
フォークリフト	2t	2
ドラムフォークリフト	1.8t	1
ユンボ	PC50	1
ペイローダー510	1.2t	1
営業用乗用車	－	2

③ 屋外タンク

用途	容量（ℓ）	保有数（基）
再生用	50,000	5
有価用	50,000	2
再生用	25,000	3
再生用	14,000	2

合計　12基

④ 免許等取得状況

免許等の種類	人数	免許等の種類	人数
大型自動車免許	17	小型車両系建設機械運転	3
危険物取扱免許(乙種4類)	14	高所作業車運転技能講習	4
危険物取扱免許(丙種)	2	玉掛技能講習	8
フォークリフト運転技能講習	11	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任技能講習	9
小型式移動クレーン運転技能講習	11	整備管理者	1
運行管理者	2	職長教育	5
特定化学物質作業主任者	1	有機溶剤作業主任者	1

⑤ 運搬車両

ローリー車(タンク車)：油など液体を移送するために使用する車輌

大型16kℓ ローリー車

大型14kℓ ローリー車

中型4kℓ ローリー車

マグナスダンパー車(清掃車)：汚泥、スラッジなどを抜取る吸引力の強い車両です。

大型10ｔマグナスダンパー車

中型4tマグナスダンパー車

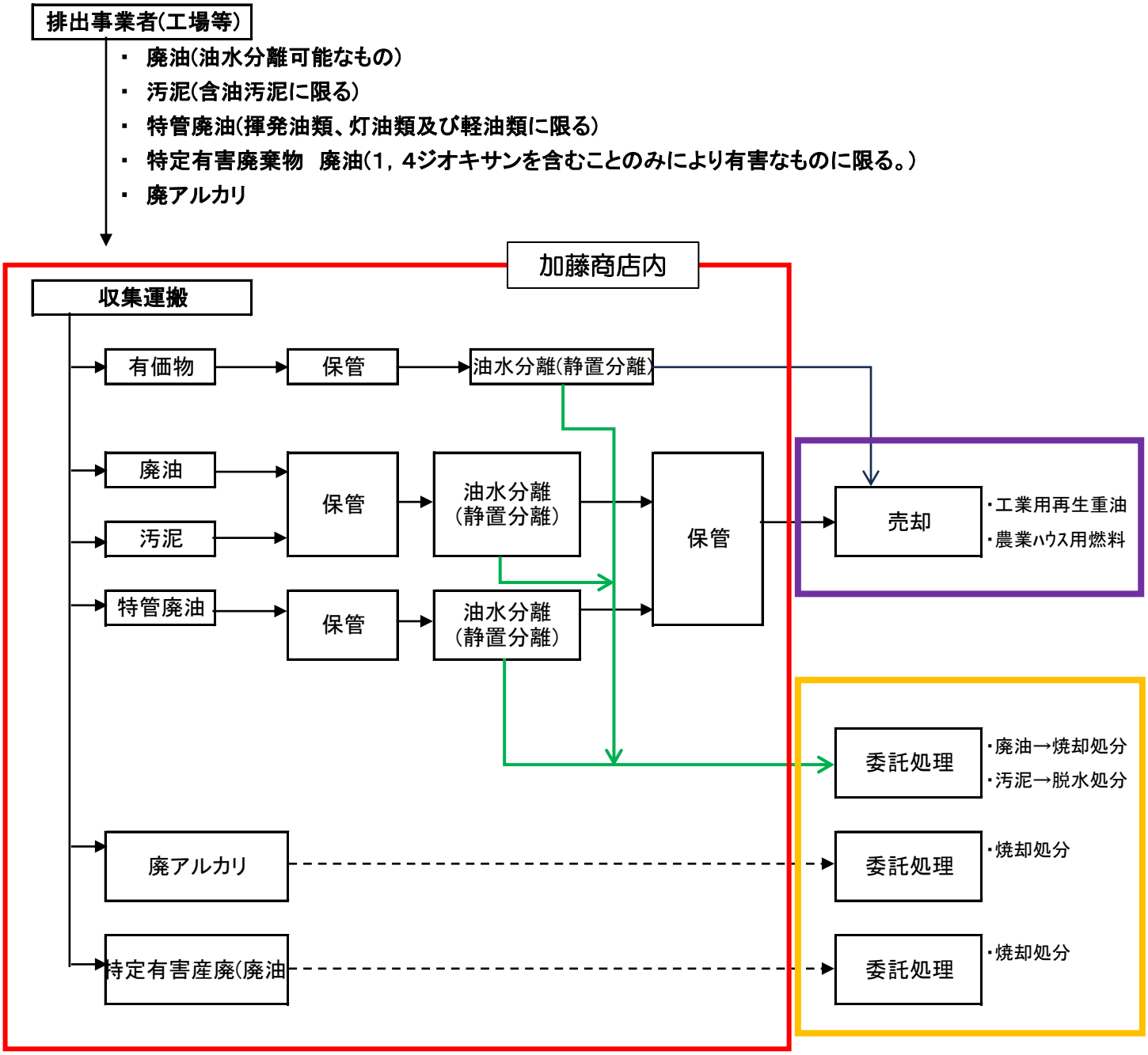
バキュームローリー車(タンク車)：油、水を抜き取る車輌

中型4tバキュームローリー車

ユニック車(キャブオーバー)：ドラム缶などの引取りに使用するクレーン付きの車輌です。

大型ユニック車

9）処理工程図（油水分離処理工程図）



処理委託
廃油・汚泥(含油汚泥)
汚泥・ドレイン水

収集運搬
（一部持込有）

油水分離

製品保管

出荷
外部処理委託

10) 処理実績

① 収集運搬量

年度:8月～7月

廃棄物の種類	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
汚泥	トン	1,410	2,459	3,291	4,359	3,945	3,887
廃油	トン	1,460	2,317	3,438	1,916	1,880	1,595
廃アルカリ	トン	162	161	202	229	389	194
特管廃油	トン	52	25	39	104	217	40
特定有害廃油	トン	0	0	0	0	0	0

② 中間処理量

年度:8月～7月

廃棄物の種類	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
汚泥・汚泥	トン	3,093	5,156	5,562	5,515	3,184	3,300
特管廃油	トン	56	25	37	87	36	204
特定有害廃油	トン	0	0	0	0	0	0

③ 再生油販売量、委託処理処理量等

年度:8月～7月

種類等	処分方法	単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
再生油	売却	トン	2,810	2,807	2,958	2,987	2,694	3,058
ハウス燃料	売却	トン	147	115	140	497	337	308
再生油販売量合計		トン	2,957	2,922	3,098	3,484	3,031	3,366
委託処理	焼却・脱水	トン	549	993	308	246	24	11
委託処理	焼却	トン	1,040	1,407	557	409	279	902
委託処理	ｾﾒﾝﾄ固化	トン	103	360	218	198	507	1,121
委託処理	油水分離・混合	トン				2,038	1,233	53
委託処理	脱水	トン				1,388	1,275	1,259
処理委託合計		トン	1,692	2,760	1,083	4,279	3,318	3,347

※ 中間処理量との差異は、自社による収集運搬量に加えて、他社の収集運搬による中間処理委託量が含まれるため①と②は差異が生じます。

※ 委託処理は、自社の中間処理時の「残さ」、収集運搬委託による他社中間処理場搬入量です。

※ ①及び②は工程図の赤枠内における数量です。

※ ③は工程図の紫枠、オレンジ枠における数量です。

※ ③の委託先は、随時変更しています。

11) 環境負荷

		単位	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
総エネルギー投入量	電力使用量	kWh	17,026	17,164	21,683	23,836	27,716	29,578
	軽油使用量	ℓ	74,069	91,912	84,855	106,312	136,554	119,900
	ガソリン使用量	ℓ	1,588	1,356	1,339	1,555	1,461	1,861
	LPG使用量	㎥	20	9	12	11	12	11
	灯油使用量	ℓ	916	1,042	972	1,067	972	957
二酸化炭素排出量		kg-CO2	209,074	254,939	238,274	291,596	377,020	335,100
廃棄物排出量	紙類再生利用	トン	0.10	0.10	0.10	0.10	0.30	0.18
	廃プラ焼却分	㎥	40	51	57	55	63	54
水使用量	地下水	㎥	5,131	4,329	4,010	1,410	3,775	3,824

※ 電気CO2排出係数は、2018年度は、0.505kg-CO2/kWh（平成26年度東京電力を使用）

※ 電気CO2排出係数は、2019年度～2023年度は、0.462kg-CO2/kWh（平成29年度調整後東京電力ｴﾅｼﾞｰﾊﾟｰﾄﾅｰ(株)を使用

12) 廃棄物処理料金

個別見積による（見積料は無料）

2. 対象範囲

1） 対象事業所

本社・工場　　〒 289-1503　千葉県山武市松尾町谷津2番地

2） 事業活動

○ 産業廃棄物収集運搬業
○ 産業廃棄物中間処理業
○ 特別管理産業廃棄物収集運搬業
○ 特別管理産業廃棄物中間処理業
○ 各種タンクの清掃及び管理
○ 再生油の製造・販売

３. 環境経営方針

《基本理念》

当社は、「メンテナンスニーズに迅速に適切に対応する」をモットーに、顧客との信頼を築くことによって、事業拡大を目指し、社会貢献を果たします。

《環境経営方針》

産業廃棄物等の収集運搬及び処分事業を通して、当社の関係する環境関連の法律、規制、条約等の遵守はもとより、地球温暖化防止や資源の有効活用を図るため、課題とチャンスを踏まえ、以下の環境経営目標に取組み、継続的改善に努めます。

(1) 排出事業者とのコミュニケーションを密にし、廃油のリサイクル量を拡大します。

(2) 収集運搬車両の燃費向上、節電等により二酸化炭素排出量を削減します。

(3) 節水により地下水の使用量の削減をします。

(4) 自社廃棄物を削減します。

(5) 化学物質の適正管理、受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮に取組みます。

当社の環境経営方針は、社内に掲示し、全ての従業員に周知します。

また、環境活動を「環境経営レポート」に記載し公表します。

制定日 ： 2007 年 11 月 1 日

改定日 ： 2020 年 8 月 1 日

株式会社 加藤商店

代表取締役 加藤芳秀

4. 環境経営目標

① 2023年度は、2022年度実績を基準に改定を行い実施いたしました。

環境目標		部門	単位	2022年度 実績基準	2023年度 目標
売上高		全社	百万円	742	854
収集運搬量	産業廃棄物	運搬部門	トン	6,675	5,716
	有価物(廃油等)			4,233	5,241
産業廃棄物処理量	処理量	処理部門	トン	3,218	3,504
	受託処理量			56	707
再生油販売量		営業部門	トン	3,031	3,366
電気使用量	事務所	事務部門	kWh	9,841	10,244
	処理場	処理部門	kWh	17,875	19,334
	原単位 (使用量/処理量)		kWh/トン	5.46	4.59
軽油使用量	運搬車両	処理部門	ℓ	136,372	119,483
	原単位 (使用量/処理量)		ℓ/トン	12.50	10.90
	重機		ℓ	273	273
	原単位 (使用量/処理量)		ℓ/トン	0.08	0.06
ガソリン使用量	営業車	全社	ℓ	1,461	1,476
	原単位(ℓ/売上高)		ℓ/百万円	1.97	1.73
灯油使用量	暖房用		ℓ	972	972
LPG使用量	給湯用		㎥	12	12
二酸化炭素排出量	総排出量		kg-CO2	377,296	333,869
	原単位		kg-CO2/トン	21.35	18.01
自社廃棄物	OA紙	本社	枚	48,000	48,000
	一般廃棄物	処理部門	㎥	63	63
地下水使用量	処理部門	全社	㎥	3,775	3,775
グリーン購入	全社		品目	事務用品購入実施	
化学物質の取扱			ー	購入時実績把握	
環境配慮			ー	クレーム・苦情ゼロ	

電気排出係数は、東京電力エナジーパートナー(株)H29年度調整済み排出係数 0.462kg-CO2/kWhを使用

2023年度環境経営目標ポイント

(1)売上高、産廃収集量、産廃持ち込み、有価物、産廃処理量、再生油販売量は2022年度実績を毎年1%増加とする。

(2)電気使用量は事務所の使用量は2022年度実績を維持する。処理場は2022年度原単位実績を0.01削減する。

(3)軽油は運搬車両の原単位は2022年度原単位を0.01削減とし、重機の使用量は2022年度実績維持とする。

(4)ガソリンの使用量は2022年度実績維持とする。

(5)灯油とLPGは2022年度実績維持とする。

(5)自社廃棄物のOA紙と産廃は2022実績維持とする。地下水使用量は2022年度実績を維持する。

(6)化学物質は購入実績を把握する。

(7)グリーン購入は事務用品購入時に配慮する。

(8)環境配慮は収集運搬時や外部清掃作業時のクレーム・苦情ゼロ件とする。

② 2023年度環境経営計画

2023年度は下記の環境経営計画に基づき①環境経営目標達成のための活動をしました。

取り組みテーマ	担当部門	活動内容
電気使用量の削減	全社	① エアコンの使用の適正化(温度設定、退出時OFF、フィルター清掃) ② 不要電力のOFF徹底(証明、OA機器)、処理機器の定期点検・整備 ③ 処理機器の定期点検・整備 ④ 月次データの把握とフィードバック
軽油使用量の削減	運搬部門 処理部門	① アイドリングストップ・エコドライブ ② 車両整備の徹底 ③ 効率的配送計画 ④ 月次データの把握とフィードバック
ガソリン使用量の削減	全社	① アイドリングストップ・エコドライブ ② 低燃費車の導入 ③ 車両整備の徹底
二酸化炭素排出量削減	全社	① エネルギー各項目目標達成 ② 省エネ教育実施 ③ 省エネパトロール実施
自社廃棄物の削減	本社 処理場	① ペーパーレス ② 裏紙使用徹底 ③ 分別の徹底
地下水の削減	本社 処理場	① 配管の漏洩点検 ② 洗車水・散水の節約
グリーン購入	全社	① 環境配慮製品の選定・購入
化学物質管理		① 化学物質購入・使用・在庫の把握
製品サービス環境配慮		① 事業に関わるクレーム・苦情ゼロ

4－1. 2023年度環境経営目標の実績

評価　○ 100%以上　　△ 97%以上達成　　X 97%未満達成

環境目標		部門	単位	2023年度目標	2023年度実績	達成率	評価
売上高		全社	百万円	749	854	114.07%	○
収集運搬量	産業廃棄物	運搬部門	トン	6,675	5,716	85.63%	X
	有価物(廃油等)			4,233	5,241	123.81%	○
産業廃棄物処理量	自社持込	処理部門	トン	3,218	3,504	108.89%	○
	受託(持込)			56	707	1261.75%	○
再生油販売量		営業部門	トン	3,031	3,366	111.05%	○
電気使用量	事務所	事務部門	kWh	9,841	10,244	96.07%	X
	処理場	処理部門	kWh	17,828	19,334	92.21%	X
	原単位(使用量/処理量)		kWh/トン	5.45	4.59	118.59%	○
軽油使用量	運搬車両	処理部門	ℓ	136,184	119,483	113.98%	○
	原単位(使用量/処理量)		ℓ/トン	12.48	10.90	114.49%	○
	重機		ℓ	273	417	65.47%	X
	原単位(使用量/処理量)		ℓ/トン	0.08	0.10	84.20%	X
ガソリン使用量	営業車	全社	ℓ	1,476	1,861	79.31%	X
	原単位(ℓ/売上高)		ℓ/百万円	1.97	2.18	90.47%	X
灯油使用量	暖房用		ℓ	972	957	101.52%	○
LPG使用量	給湯用		㎥	12	11	106.19%	○
二酸化炭素排出量	総排出量		kg-CO2	376,816	335,100	112.45%	○
	原単位		kg-CO2/トン	21.89	18.08	121.08%	○
自社廃棄物	OA紙	本社	枚	48,000	45,000	106.67%	○
	一般廃棄物	処理部門	㎥	63	54	116.67%	○
地下水使用量	処理部門	全社	㎥	3,775	3,824	98.72%	△
グリーン購入	全社		品目	実施	実施	－	○
化学物質の取扱			－	○	○	－	○
環境配慮			－	0件	0件	－	○

電気排出係数は、東京電力エナジーパートナー(株)H29年度調整済み排出係数 0.462kg-CO2/kWhを使用

① 2023年度活動実績に対するコメント

1、事業活動

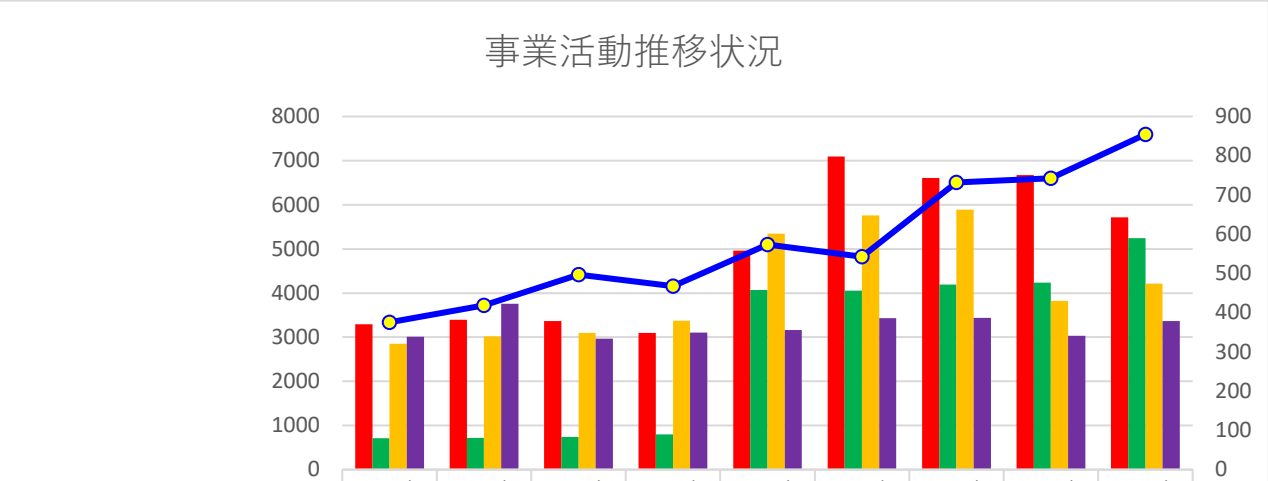
売上高は目標値114%、前年比115%と達成している、収集運搬量(産業廃棄物)は85.63%、収集運搬量(有価物)は123.81%とし、トータル100.54%と収集運搬量としては達成している。

処分量(自社搬入量、持込量)が、108.89%、1261.75%、トータル130.85%と達成している。

再生油販売量も111.05%とこちらも達成している。

図-1の通り売上高が右肩上がりで推移しているが、収集運搬量(産廃)が年々下降してきている、有価物(廃油)の運搬量が増加した。

図-1



	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
収集運搬量(産廃) (ﾄﾝ)	3289.9	3396.6	3366.05	3099.33	4963.3	7095.61	6608.1	6675.33	5715.98
収集運搬量(有価) (ﾄﾝ)	713.2	719.14	742.24	795.8	4065.5	4056.6	4191.61	4233.43	5240.98
処分量 (ﾄﾝ)	2849.14	3017.6	3100.9	3370.5	5345.1	5761.6	5890.43	3821.49	4210.6
再生油販売 (ﾄﾝ)	3009	3756	2965	3107	3165.2	3434	3440	3031	3366
売上 (百万円)	375.52	418.96	496.52	467.54	573.38	542.54	731.84	742.14	854.37

2、二酸化炭素排出量関連

A　電気使用量削減

処分量が増加したため、電気使用量が増加し、事務所及び工場での使用量が96.07%、92.21%とし未達成で終わった。

しかしながら、電気原単位は処理量が増加している影響で118.59%と達成した。

B　軽油使用量削減

収集運搬車両の軽油使用量は、収集運搬量が増加したにも関わらず、113.98%と達成した。

原単位も114.49%と達成している。

但し、処分量が増加した影響で重機の稼働率が上がり、軽油使用量が65.47%と未達成、原単位も84.20%とこちらも未達成で終わった。

C　ガソリン使用量削減

営業による走行が増加した関係上、79.31%と未達成、原単位も49.47%と未達成で終わった。

D　灯油使用量削減

こちらは、ここ6年間ほど一定の使用量で推移しており、2023年度も101.52%として達成。

E　LPG使用量削減

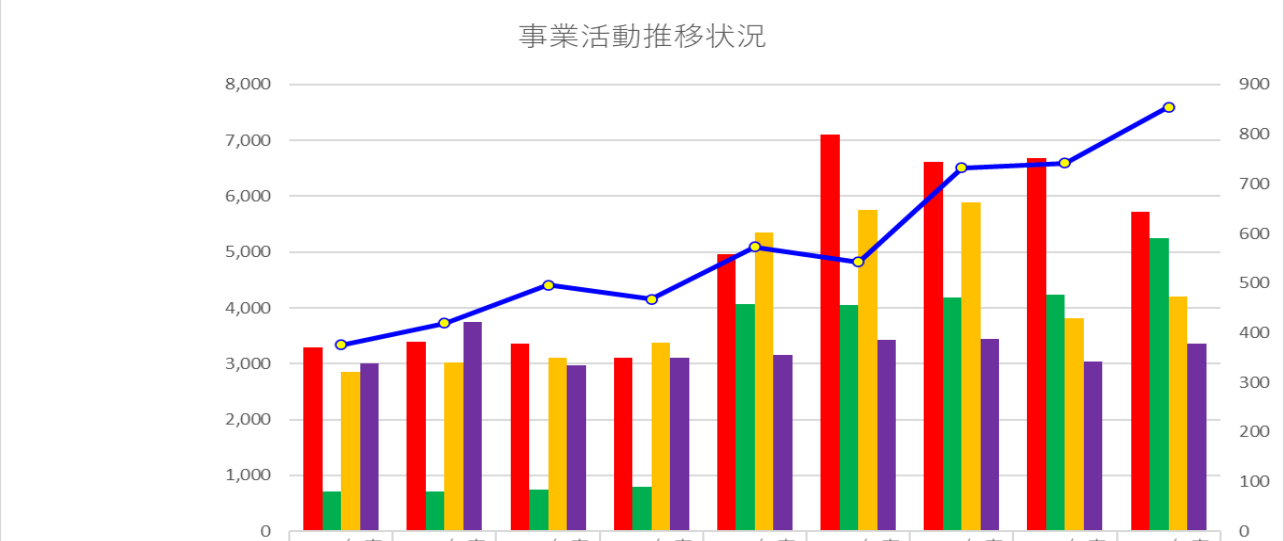
上記灯油使用量と変わらず、一定の使用量もあまり変動なく行ってしているため、106.19%と達成。

F　二酸化炭素排出量

上記 A～E を踏まえて排出量112.45%、原単位121.08%と達成している。

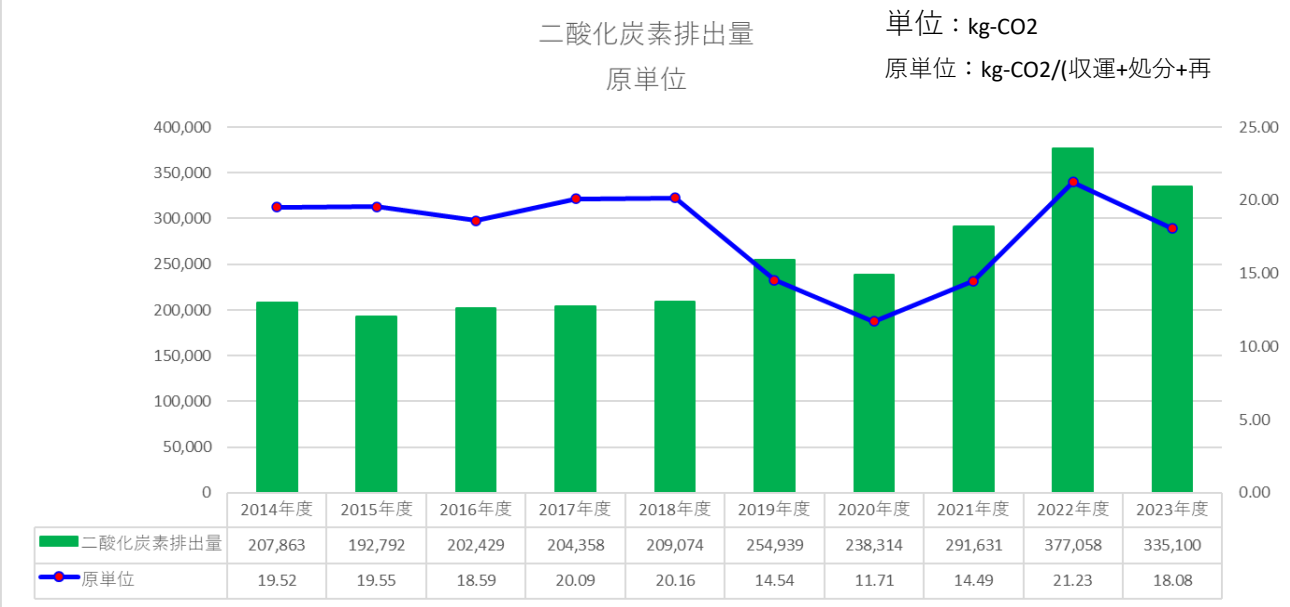
A～Eの推移は図-2、Fは図-3を参照。

図-2



	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
収集運搬量(産廃)(ﾄﾝ)	3,290	3,397	3,366	3,099	4,963	7,096	6,608	6,675	5,716
収集運搬量(有価)(ﾄﾝ)	713	719	742	796	4,066	4,057	4,192	4,233	5,241
処分量(ﾄﾝ)	2,849	3,018	3,101	3,371	5,345	5,762	5,890	3,821	4,211
再生油販売(ﾄﾝ)	3,009	3,756	2,965	3,107	3,165	3,434	3,440	3,031	3,366
売上(百万円)	376	419	497	468	573	543	732	742	854

図-3



	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
二酸化炭素排出量	207,863	192,792	202,429	204,358	209,074	254,939	238,314	291,631	377,058	335,100
原単位	19.52	19.55	18.59	20.09	20.16	14.54	11.71	14.49	21.23	18.08

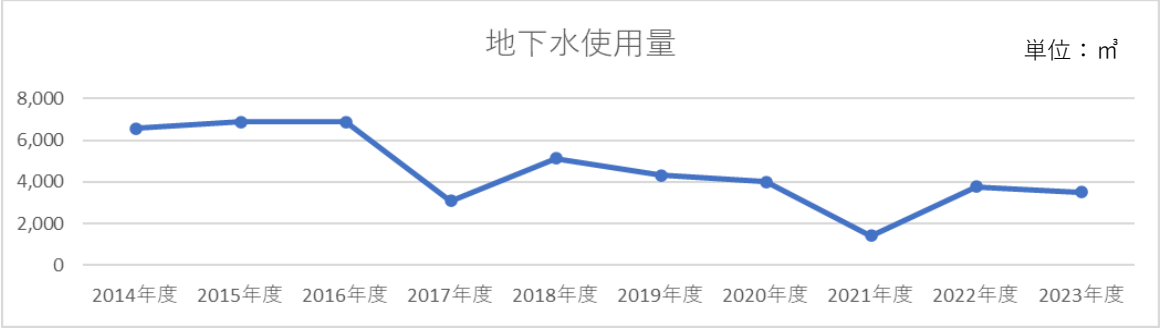
G　自社廃棄物の削減

OA紙使用量削減、自社一般廃棄物排出量削減は、106.67%、116.67%と達成した。

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
自社一般廃棄物	33	29	46	54.9	40	51	57	55	63.1	54
OA紙	30000	25000	41000	30000	20000	20000	40000	35000	4800	45000

H　地下水使用量削減

日頃から節水を心掛けているため、116.67%と達成した



I　化学物質、グリーン購入

化学物質の購入実績は有りませんでした。また、グリーン購入については事務用品等の購入に対して適切に実施した。

J　製品及びサービスへの環境配慮

近隣住民から油の漏洩を疑われ行政の立入調査を受けるも漏洩事故による油は発見できず問題無しとなった。　※外部コミュニケーション報告参照

② 環境経営計画の取組と評価

2023年度の環境経営計画の取組評価表

評価：　5　非常に優秀　　4　優秀　　3　普通　　2　基準以下　　1　実施していない

取り組みテーマ	担当部門	活動内容	評価
電気使用量の削減	全社	① エアコンの使用の適正化(温度設定、退出時OFF、フィルター清掃)	4
		② 不要電力のOFF徹底(証明、OA機器)、処理機器の定期点検・整備	5
		③ 処理機器の定期点検・整備	4
		④ 月次データの把握とフィードバック	4
軽油使用量の削減	運搬部門 処理部門	① アイドリングストップ・エコドライブ	5
		② 車両整備の徹底	5
		③ 効率的配送計画	5
		④ 月次データの把握とフィードバック	5
ガソリン使用量の削減	全社	① アイドリングストップ・エコドライブ	5
		② 低燃費車の導入　※	4
		③ 車両整備の徹底	5
二酸化炭素排出量削減	全社	① エネルギー各項目目標達成	4
		② 省エネ教育実施	5
		③ 省エネパトロール実施	5
自社廃棄物の削減	本社 処理場	① ペーパーレス	5
		② 裏紙使用徹底	5
		③ 分別の徹底	5
地下水の削減	本社 処理場	① 配管の漏洩点検	5
		② 洗車水・散水の節約	4
グリーン購入	全社	① 環境配慮製品の選定・購入	5
化学物質管理		① 化学物質購入・使用・在庫の把握	5
製品サービス環境配慮		① 事業に関わるクレーム・苦情ゼロ	5

2023年度の環境経営計画においては、特に問題となる活動は無かったが、ガソリン使用量削減において②の低燃費車の導入に関しては、購入に対する費用発生、保険等の付随項目が多いため、次回からは費用面等にかかる計画は見直しを図る必要がある。

5. 緊急事態対応訓練実施

2023年度は「フォークリフト構内作業中のドラム缶落下事故」に対応する訓練を実施した。

① フォークリフトにてドラム缶の移動作業中に
他のいドラム缶に接触し落下させる。

② 落下したドラム缶が転がる。

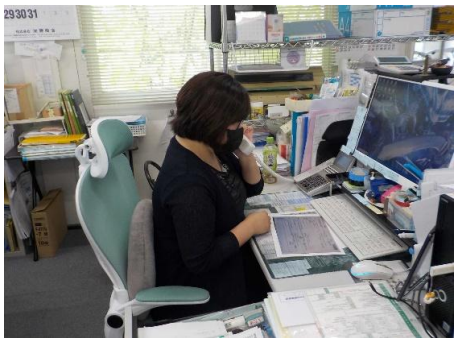
③ 転がったドラム缶が作業員Bに接触する。

④ ドラム缶に接触した作業員Bがその場に倒れて
ドラム缶の下敷きになる。

⑤ 作業員Cが作業員Bへ駆け寄り、安否確認を
行う。

⑥ 作業員Cが作業員Bの容態を事務所へ連絡する。
救護活動を実施する。

⑦ 連絡を受けた事務所は、怪我の状態によっては
救急車要請、社長へ連絡指示をもらう。
それによっては現場へ連絡をする。



⑧ 訓練参加者一同

※ 今回は、空ドラム缶を使用して行った、実際は実入りの可能性があるため、構内作業は慎重に行う、また、
今回の訓練によって「けが発生緊急事態対応手順」に怪我発生要因に重機使用中の緊急事態対応手順を
追加した。

6. 環境経営目標

2024年度～2026年度中期経営目標を策定し実践する。

項目			単位	基準値	2024年度目標	2025年度目標	2026年度目標
事業活動	売上高		百万円	866	875	883	892
	収集運搬量合計 ①		トン	10,202	10,304	10,407	10,511
	産業廃棄物			5,817	5,875	5,934	5,993
	有価物			4,385	4,429	4,473	4,518
	廃棄物処理量合計 ②		トン	4,395	4,439	4,483	4,528
	自社便処理量			3,821	3,859	3,898	3,937
	他社便処理量			574	580	586	591
	再生油販売量 ③		トン	3,511	3,546	3,582	3,617
二酸化炭素排出量削減	電気使用量削減 使用量合計		kWh	33,805	33,467	33,132	32,801
	事務所使用量			12,414	12,290	12,167	12,045
	処理場使用量			21,391	21,177	20,965	20,756
	処理場原単位		KWh/トン (処理場使用量/②)	4.87	4.77	4.68	4.58
	軽油使用量削減 使用量合計		ℓ	135,037	133,687	132,350	131,026
	収集運搬車両使用量			133,634	132,298	130,975	129,665
	原単位（収集運搬車両÷収集運搬量）		ℓ/①	13.10	12.84	12.59	12.34
	重機使用量		ℓ	1,403	1,389	1,375	1,361
	原単位（重機使用量÷廃棄物処理量）		ℓ/②	0.32	0.31	0.31	0.30
	ガソリン使用量削減		ℓ	1,983	1,963	1,944	1,924
	原単位（ｶﾞｿﾘﾝ使用量÷売上高）		ℓ/売上高	2.29	2.24	2.20	2.16
	灯油使用量削減		ℓ	1,078	1,067	1,057	1,046
	LPG使用量削減		㎥	24	24	24	24
	二酸化炭素排出量		kg-CO2	374,374	370,632	366,927	363,259
	二酸化炭素排出量原単位		kg-CO2/①②③	20.67	20.27	19.86	19.47
廃棄物削減	自社廃棄物廃棄物削減	一般廃棄物	㎥	69	69	69	69
		OA紙使用量	箱	10	A4用紙換算10箱(1箱5,000枚)		
節水	地下水使用量削減		㎥	4,170	4170	4170	4170
EA21必須項目	化学物質の取扱		管理	適正管理	適正管理		
	受託した産業廃棄物の収集運搬・処分における環境配慮		件数	ゼロ件	得意先でのトラブル 0件を維持		

※ 電気排出係数は、東京電力エナジーパートナー(株) 令和4年度調整後メニューN(残渣) 0.390kg-CO2/Kwh使用

【2024年度～2026年度中期計画目標のポイント】

新型コロナ感染症が5類移行に伴い、経済活動が活発になることが予想されるため、直近の実績を基準に目標値を決定するのではなく過去の実績を参考にその平均値を基に分析を行い、2024年度～2026年度の中期計画目標の基準値を決定し、それらを基に中期計画目標を次の通り策定し実行推進する。

尚、過去の実績とは、2014年度～2023年度の10年間分の実績を基に分析を行い基準値の設定を行った。

これは、新型コロナ前、新型コロナ中、新型コロナ明けの実績値なので信憑性は大いにある。

① 基準値について
過去10年間(2014年度～2023年度)の各実績値の平均値を基に標準偏差にて値のばらつきを考慮して、各目標値を決定し基準値とした。

② 事業活動の各項目について
2024年度は基準値のプラス1%を目標値を設定、2025年度移行は前年度目標値のプラス1%とした。

③ 二酸化炭素排出量削減項目について
電気使用量、軽油使用量、ガソリン使用量、灯油使用量においては、2024年度は基準値のマイナス1%を目標値に2025年度移行は前年度目標値のマイナス1%を目標値とした。
LPG使用量に関しては、P15 図-2のグラフの通りほぼ一定の使用量なので、基準値の値を継続する。
二酸化炭素排出量は、③の項目から算出された値となります。

④ 自社廃棄物の削減
OA紙使用量は、カウント枚数管理が煩雑となるため、大手通販サイトから購入箱数を管理します。
大手通販サイトでは、A4 1箱換算 5,000枚となります。
自社一般廃棄物は、基準値を継続する。
※ 大手通販サイトとは、カウネット、アスクル等です。

⑤ 地下水使用量削減
基準値を継続する。

⑥ EA21必須項目
化学物質の取扱に関しては、収集運搬及び処理に際して、SDS等の活用により、化学物質の有無の確認を行う。
環境配慮については、収集運搬の委託を受けた顧客先で作業等における苦情やクレーム件数のゼロ件を維持します。

【2024年度～2026年度環境経営計画】

環境経営計画は下記の通りです。

取り組みテーマ	担当部門	活動内容
電気使用量の削減	全社	① エアコンの使用の適正化(温度設定、退出時OFF、フィルター清掃) ② 不要電力のOFF徹底(証明、OA機器)、処理機器の定期点検・整備 ③ 処理機器の定期点検・整備 ④ 月次データの把握とフィードバック
軽油使用量の削減	運搬部門 処理部門	① アイドリングストップ・エコドライブ ② 車両整備の徹底 ③ 効率的配送計画 ④ 月次データの把握とフィードバック
ガソリン使用量の削減	全社	① アイドリングストップ・エコドライブ ② 車両整備の徹底
二酸化炭素排出量削減	全社	① エネルギー各項目目標達成 ② 省エネ教育実施 ③ 省エネパトロール実施
自社廃棄物の削減	本社 処理場	① ペーパーレス ② 裏紙使用徹底 ③ 分別の徹底
地下水の削減	本社 処理場	① 配管の漏洩点検 ② 洗車水・散水の節約
化学物質管理		① 化学物質購入・使用・在庫の把握
製品サービス環境配慮		① 事業に関わるクレーム・苦情ゼロ

環境経営計画について
P12の環境経営計画を上記の通り継続しますが、一部変更及び削除します。
ガソリン使用量削減より、「低燃費車の導入」については予算化しなければならないため、計画からは削除
「グリーン購入」に関しては、事務用品等についてはほぼグリーン製品を購入しているため、管理項目からも削除しているため、計画からも削除します。

7. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

当社が関係する主な環境関連法令は下記の通りです。

・ 廃棄物の処理及び清掃に関する法律　・ 千葉県廃棄物の処理及び清掃に関する法令施行規則
・ 自動車NOx・PM法　・ 千葉県ディーゼル自動車から排出される粒子状物質の排出の抑制に関する条例
・ 特定特殊自動車排出ガスの規制等に関する法律　・ 道路運送車両法　・ 道路交通法
・ 水質汚濁防止法　・ 浄化槽法　・ フロン排出抑制法　・ 消防法　・ 高圧ガス保安法
・ 労働安全衛生法　・ 千葉県環境保全条例　・ 山武市公害防止条例

2024年9月20日に環境関係法令等の遵守状況を確認した結果、2023年度(2023年8月1日～2024年7月31日)の間環境関連法令に違反は無いことが確認しました。
また、関係各省庁等からの訴訟のについては有りませんでした。

8. 代表者による全体の評価と見直しと指示

報告事項	管理責任者からの報告内容	見直等指示
環境経営目標及びパフォーマンス	事業活動の「収集運搬量」「廃棄物処理量」「再生油販売量」は、産業廃棄物収集運搬量が未達成であったが、その他の項目は達成している。また、収集運搬量全体で見ると収集運搬量は達成している。 二酸化炭素排出量削減に於いて、「電気使用量」「重機軽油使用量」「ガソリン使用量」が未達成であった。運搬車両の軽油使用量のみが達成しているが、これは収集運搬量が未達成の影響があるのであまりプラス要素では無い。これに伴い二酸化炭素総排出量及び原単位は、目標値をクリアした。	2024年度からの中期計画目標につて、各項目の目標値を理論立て策定してください。
環境関連法令遵守	2024年9月20日に「環境関係法令等登録表/遵守評価記録」により遵守状況の評価を行い特に問題は無かった。	引き続き関係法令を遵守してください。
外部からの苦情・クレーム	近隣住民から油漏れを疑われ、行政が漏洩調査に来たが、工場内及び工場周辺から油漏れの事実は確認できませんでした。	苦情・クレームは真摯に受止め対応は速やかに行ってください。
緊急事態対応訓練	工場内重機使用中による対応訓練を2024年7月29日実施し、「けが発生緊急事態対応手順」の内容を一部改訂・追記をした。	訓練は継続的に実施してください。
是正・予防措置	産業廃棄物収集運搬量及び重機軽油使用量が2023年12月から連続6ヶ月間未達成のため是正・予防措置を行った。	予防措置を怠らず実施してください。
前回の見直し指示のフォローアップ	なし	―
改善のための提案	なし	―
その他見直等の必要な情報	2022年度更新審査における指摘事項の対応 ●工場内の危険物一般貯蔵所の看板表示が風化して見にくい →対応済み ●2023年度12月以降のLPGの記入 →対応済み ●二酸化炭素排出量の累積評価の計算方法 →計算式の修正済み	指摘事項の改善を確認した。

変更の必要性の有無	① 環境方針	変更なし	
	② 環境経営目標	2024年度以降の中期計画目標を策定し取り組む	
	③ 環境経営計画	新たな中期経営計画を2024年度以降に策定後取り組む	
	④ 環境経営システム	組織体系を含め変更なし	社長
社長コメント	有価物量、再生油販売量が好調ではあるが、それに胡座をかくことなく堅実に収集運搬量の増加及び処理量の増加に力を入れれば、二酸化炭素排出量削減に繋がる事となり達成ができるはず。 また、2024年度から026年度は新たな中期計画目標を策定をして改善活動に推進します。		加藤 9月30日